

目次

クリモトグループの紹介

- P1 2025年編集ポイント／編集方針
- P3 クリモトグループについて
- P5 クリモトグループの軌跡

「四方よし」の実現に向けて

- P7 トップメッセージ
水もインフラもあまねく
未来につなげる
- P11 「四方よし」実現のプロセス
- P13 「より良い未来像」へ向けた
フィッシュボーンチャート
- P15 社会課題の解決と
未来に向けたアプローチ
- P16 「四方よし」を実現する
「アウトサイド・イン」アプローチ

P17 特集 今そこにある「水道の危機」に向き合う



中期3ヵ年経営計画・財務戦略

- P19 中期3ヵ年経営計画(2024～2026)
の概要と進捗
- P21 財務担当取締役メッセージ
売上高・営業利益・ROE、
いずれも計画を上回る



事業紹介

- P23 パイプシステム事業部
- P24 バルブシステム事業部
- P25 機械システム事業部
- P26 素形材エンジニアリング事業部
- P27 建材事業部
- P28 化成品事業部

サステナビリティの取り組み

- P29 サステナビリティ戦略
- P31 マテリアリティ策定のプロセス
- P32 マテリアリティ・マトリックス
- P33 ESGの取り組み【環境(E)】
- P37 ESGの取り組み【社会(S)】

P39 人事担当取締役メッセージ 人的資本経営は社会のため、 成長拡大のため

- P41 クリモトの人的資本戦略
- P43 ESGの取り組み【ガバナンス(G)】
- P45 取締役・監査役のスキルマトリックス
- P46 技術資本で未来を切り拓く

会社情報

- P47 役員一覧
- P49 会社概要
- P50 株式の状況

2025年編集ポイント

本報告書は、事業活動と社会価値の両立を目指す、クリモトグループの価値創造ストーリーを統合的かつ簡潔に、ステークホルダーの皆さまへお伝えすることを目的として発行しています。

「統合報告書2025」では、昨年度の内容をベースとして、当社グループが掲げる2030年にありたい姿「四方よし」に向け、すべての事業を通じて目指す戦略：価値創造ストーリーの充実化をはかりました。また、より良い未来像へ向けたフィッシュボーンチャートや社会課題を起点とした事業へのアプローチ、役員の「マイ パーパス(=役員が考える当社の存在意義)」を具体化し、次の100年に貢献する姿や、社会とともに成長する当社グループの“志”を解説しています。

ステークホルダーの皆さまとの対話は、当社グループの持続的成長にとって必要不可欠であります。本報告書をご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜れば幸いです。

「マイ パーパス」について

今回の「統合報告書2025」では、社長をはじめ担当領域を担う取締役、事業領域を担う執行役員の「マイ パーパス(存在意義)」を掲載しました。「マイ パーパス」とは、一人ひとりが自らの仕事や行動を通じて、自組織や社会、顧客にどのような貢献をしたいかを示す個人の決意表明です。これから「マイ パーパス」の思いを会社のパーパスへ統合していき、個人も、会社も、「かけがえのない存在」であることを再認識し、2030年にありたい姿である「四方よし」につなげていきます。

編集方針

対象期間
数値：2024年4月1日～2025年3月31日
施策：2024年4月1日～2025年3月31日
※一部対象期間外の情報も掲載しています。

対象範囲
数値：当社および連結子会社
施策：当社およびグループ会社

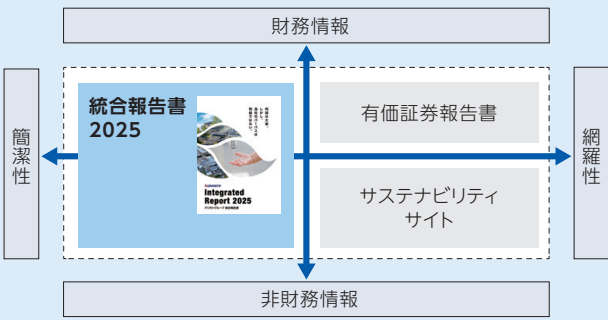
参照ガイドラインなど

- 国際統合報告協議会(IIRC)「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」
- Global Reporting Initiative「GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード」

用語
文中の「社員」は、「従業員」を示しています。

主な情報開示ツールおよびその内容

- 統合報告書では、中長期視点の経営戦略に沿って、築き上げてきたビジネスモデルによる事業活動やESGの取り組みなど、持続的に企業価値を向上させるための、クリモトグループの考え方と今後の展望を中心に簡潔にまとめております。(経営理念／経営計画／サステナビリティ情報／コーポレートガバナンス／財務サマリー)
- 本報告書に含まれていない情報は、コーポレートサイトにて開示しておりますので、ぜひご覧ください。



有価証券報告書



統合報告書



企業情報



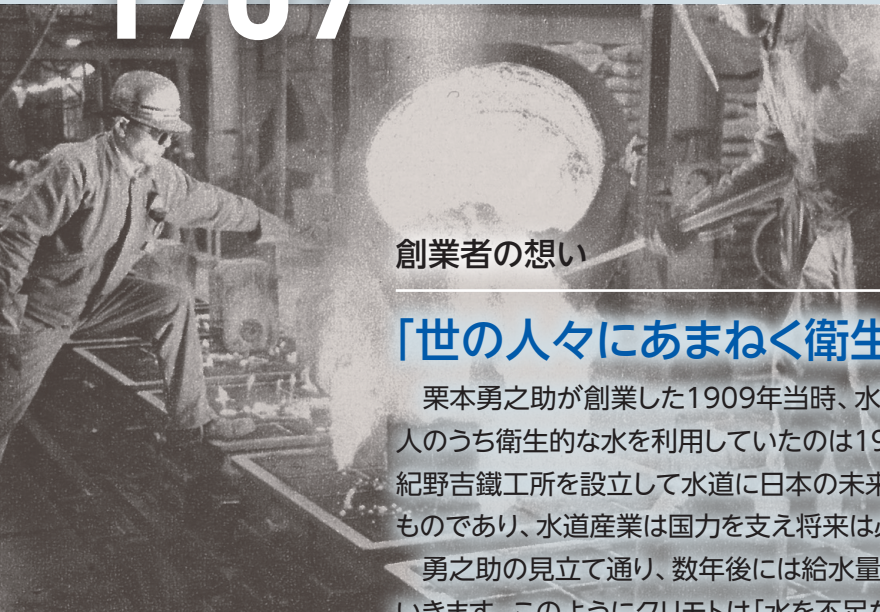
サステナビリティ



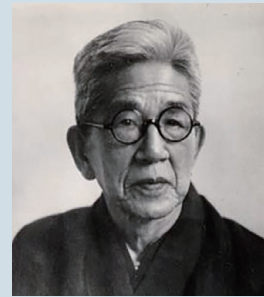
ESGデータ



1909 創業



創業者の想い



創業者 栗本 勇之助

「世の人々にあまねく衛生的で綺麗な水を届けたい」

栗本勇之助が創業した1909年当時、水道の普及はまだ始まったばかりで、人口4,850万人のうち衛生的な水を利用していたのは195万人(4%)にすぎませんでした。

紀野吉鐵工所を設立して水道に日本の未来を託した勇之助は、「水は人間生活に欠かせないものであり、水道産業は国力を支え将来は必需になる」と考えました。

勇之助の見立て通り、数年後には給水量は約3倍になり急速に衛生と生活環境が改善していきます。このようにクリモトは「水を不足なく安全に供給したい」という思いとともに歩んでまいりました。

現在

2025

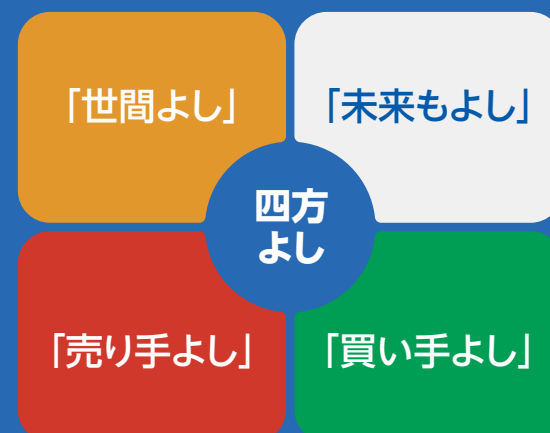
「社会インフラと産業インフラを支え、持続可能な社会を実現」

クリモトの歴史はモノづくりの歴史。創業以来115年の歴史を経てもなお、モノづくりで未来を創り続け、社会インフラの整備や産業インフラを支える産業設備の革新に心血を注いできました。水・電気・ガスなど、誰もが安心して暮らせる強靱なライフラインを築くことで、日々の生活のみならず、災害時にも人々の暮らしを支えています。そして素材や技術で産業の基盤を進化させ、お客さまの高品質な製品づくりをサポートすることで、企業価値を高め、永続的に社会の発展に貢献していきます。社会を支えるという企業の責務を50年先、100年先も全うしたいとクリモトは考えます。

未来

2030 「ありたい姿」

クリモトでは、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、「未来もよし」を加えた「四方よし」の精神で、将来にわたって社会へ貢献できる企業グループを目指します。



杜是

一、技術並に経営の革新に努める

われらは 時代の進展に応じ あらゆる職務分野において 独創的改善に努め 強くたくましく生長しよう

二、英知を育て 衆知を集める

われらは 自己を啓発すると共に より優れた英知を育て これを総合的に活用し 企業繁栄の源泉を豊かにしよう

三、有効性に徹する

われらは よき企業成果を挙げるため 人 設備 資材の効率的運用をはかり 仕事のムダ ムリ ムラをなくしよう

われらはこの基本的理念に従い 栗本人としての親和を深め 企業の発展を通じて われらの福祉向上と 人類の幸福に貢献しよう

(1961年2月制定)

企業理念

- 一 私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、人間社会のライフラインを守ります。
- 二 私達は「安心」という価値を提供し、社会と顧客の信頼に応えます。
- 三 私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、独自の技術を深め、新しい技術を加え、顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。
- 四 私達はモノづくりを通して、社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。
- 五 私達はこれらの実践のため、コンプライアンス経営を徹底し、継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、企業の発展と社会への貢献に努めます。

(1995年1月制定、2008年6月改訂)

経営理念

私達は、全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。

(2018年4月制定)

クリモトグループの軌跡

1909年～ 創成期

クリモトグループの幕開け 水道産業の成長とともに

1909年、創業者・栗本勇之助が合資会社紀野吉鐵工所を大阪市西区（現：大正区）新炭屋町に創設し、水道およびガス用鑄鉄管の製造を開始しました。鉄管需要の伸長を追い風に合資会社栗本鐵工所を旗揚げし、高級鑄鉄管の開発に成功して競争力をつけました。
1933年、合資会社栗本足田鐵工所を設立し、機械および鑄鋼部門への進出が始まりました。

1934年～ 成長期

機械システム事業スタート 戦乱から戦後の復興へ

株式会社に組織変更するとともに、機械部を新設し、産業機械、製缶、鑄鉄、鑄鋼の製造を開始しました。現在の機械システム事業の始まりです。
1935年には中国に海外第1号のプラントを輸出し、これが大量受注につながりました。以降、関西地域において主力工場を立ち上げていきます。戦後は息つく間もなく水道用鑄鉄管の需要が拡大し、復興のためにまい進しました。

1969年～ 変革期

官需と海外受注に全力を注ぎ、 不況下を乗り切る

1969年、クリモトビルを新築し、本社を現在地に移転しました。
1971年には化成品事業がスタートします。新素材のポリコンFRPパイプを開発し、現滋賀工場を建設してFRP製品の本格的な製造を開始しました。オイルショックによる不況で民需は不振ながらも、鉄管、バルブ、橋梁、水門を中心とした官需および海外受注に力を注ぎました。

1981年～ 伸展期

新分野参入への挑戦と 最新鋭鑄造設備の確保

この頃から、技術開発による新分野参入への挑戦が始まりました。従来の栗本路線にはない製品を開発する“脱鉄化”を目的に開発事業部が設置され、さまざまな新規開発に注力しました。
1987年、新日本パイプ株式会社を合併して堺工場とし、小口径ダクタイル鉄管の製造を開始しました。これは当社における生産性や合理性向上に大きく貢献するものでした。

2001年～ 転換期

社会環境の変化に苦闘も、 大規模事業再編で乗り切る

2001年には茨城県古河市に関東エリアの建材製造拠点となる古河工場を新設、2007年にはクリモト創造技術研究所を設立しました。
2008～2010年に赤字事業、子会社を譲渡・撤退し、大規模な事業再編を実施しました。
2009年には会社創立100周年を迎えました。

2016年～ 挑戦期

既存事業基盤の安定化と 境界線を越え反転攻勢へ

業績安定、棄損した財務基盤も回復し、新たな事業分野への投資や研究開発が可能になり、成長戦略を加速させていきます。
2016年には湖東工場内に、新材料領域CFRPの研究開発を加速すべく「クリモトコンポジットセンター」を開設しました。
今後も社会に貢献するため、さらに技術力向上に励んでいきます。

事業の多角化

